

クレストの間に隙間を作らないようにしている。

本人の感想

- 1) 背が大きくなった。
- 2) 生まれて始めて買い物に行った。
- 3) ご飯を食べても吐かなくなった。
- 4) うれしくて自分が強くなった。

症例 2

32 歳、脳性麻痺（アテトーゼけい性混合型）、重度四肢麻痺。体重 32kg。

随伴症状：側彎。四肢屈曲拘縮、左股関節。褥瘡なし。

ADL：

食事：車いすに座り、常時介助。車いすは 30 度のリクライニングにし、右側から摂取。むせこみ多い。

トイレ：オムツでの全介助。

ベッド上動作：体動少なく、全介助での体位交換。

車いす操作：不可。介助型車いす使用。時間経過と共にずれ落ちが見られた。1 日 13 時間は車いす使用。

コミュニケーション：発語ないが、eye contact 可能で意思表示は確立。

作成した車いす：

- 1) 2 段階リクライニング式で腸腰関節、股関節の屈曲制限を補っている。
- 2) シートが水平になってもバランス良い。移乗が楽。
- 3) 座面は硬質のスポンジで作った三角柱で変形を徐々に改善できる。
- 4) シート全体を 6cm 厚さのスポンジで覆い、各パーツはマジックテープで取り外し可。
- 5) サイドガードを体幹部に取り付けた。



図1 ダブルリクライニング式

本人の感想

車いすから落ちなくなっってうれしい。ご飯の時、むせなくなった。

2. 市販のものとの比較

目的：昨年度作成したモールドタイプの座位保持装置と形状が決まっているカンッアタイプの座位保持装置を座圧測定装置で比較検討する。



図2 カンッア式

カンッアタイプはフォーム材で出来ており、モールドと比較して安価である。また、作成上の手間がいらぬなどの利点がある。

方法

測定方法：FSA (Vista Med 社) シートは

200mmHg 用。座部と背部に分けて、2-3分測定し安定した時点のデータとした。

結果

1) モールド座の圧力分布



図3 モールド座

2) モールド背の圧力分布

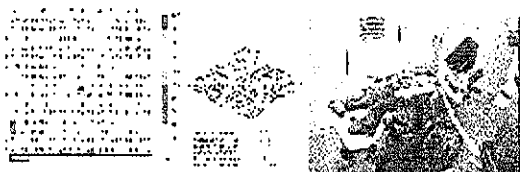


図4 モールド背

3) カンツァ座の圧力分布

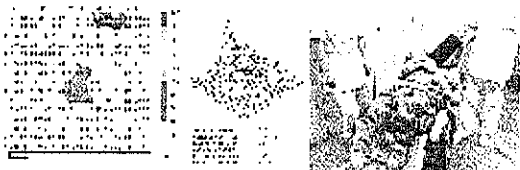


図5 カンツァ座

4) カンツァ背の分布



図6 カンツァ背

モールドと比較しカンツァは圧力が非常に高くなる場合があり、身体と座面とが適合されていない。

3. 全身の緊張とハムストリングスの短縮が著名な最重度痴呆高齢者

・ブロック式車いすに座った姿勢

骨盤は左前方に回旋。最大に奥に座って5-10分後本人が体を揺らして安定した姿

勢。前方に滑ると膝は突出。骨盤後傾が増し、ハムストリングスが膝伸展に作用する。



図7 ブロック式

これらより、

深く座らせるとハムストリングスの伸展

- ・ 本人が前方に滑る。
- ・ 座シートに膝の裏面があたる。
(特にクッションの厚みがある場合)

↓

坐骨前方に滑り、骨盤後傾増加

- ・ ハムストリングスが緩み、本人は安楽。
- ・ シート前縁と膝の間に隙間が出来、傷への心配がなくなる。
- ・ 大腿での荷重が減る。
- ・ 膝が前方突出し、車いす回旋時当たるなどリスクが高い。

しかし、全体として、今まで使用していた標準型車いすと比較して、

- (1) 褥瘡予防
- (2) 身体保護
- (3) 介助

において優れていた。

D.考察

今年度は研究協力者の考えの基で、4種の座位保持装置を製作、臨床に応用した。

ダブルリクライニング方式は股関節、膝関節の屈曲拘縮に対応できる点で有効であるが、1点を中心として角度が設定されて

いるため強度的にあまり体重が重い症例には使用できない。他者への対応は容易である。

カンツアはモールドと比較し、採形をする必要がないが形状が限られているため、身体に不適合である場合、圧力集中が起き易くなる。

モールドは身体への適合度は一番高く、圧力分散性能にも優れていた。しかし、採形に技術が必要であり、また価格も高くなる。変形が大きくなると、適合しなくなる。

ブロックタイプは適合度はないが、クッション性で圧力分散能力があり、汎用性、価格の低下が可能である。

表

	適合	汎用性	価格
ダブルリクライニング	良	優	やや高価
カンツア	良	無	やや高価
モールド	優	無	高価
ブロック	良	優	やや高価

これらより、ブロックタイプが有効と考え、市販化を検討していきたい。

また、機器の評価が統一性がとれていない問題があり、今後機器の評価を検討していく。

E. 結論

今年度は複数の機器で検討したが、ブロックタイプが重度高齢者において相対的に優れていた。今後、市販化を目指す予定である。

E・研究協力者

木之瀬隆（東京都立保健科学大学）

佐藤真理子（金浜療護園）

清宮清美（埼玉県彩光苑）

井上陽子（老人保健施設あすか）

浅海奈津美（渋谷区立あやめの苑）

F. 引用文献

1)木之瀬隆・他：シーティングシステム・座る姿勢を考える、作業療法マニュアル、（社）日本作業療法士協会、2000

2)廣瀬秀行、木之瀬隆：高齢障害者に対するシーティング活用の考え方とその実際、理学療法、16-5、378-383、1999